

ポイント

空き店舗を活用したよろず相談所「興学院」と、ワークショップ「サイエンスカフェ」で地域に密着した街づくり

大阪市北区の商店街の会員と地域団体や住民が、地域の活性化を目的とする「中崎・北天満商工倶楽部」を組織。地域コミュニティの核として、子育て・介護の悩みを共に考える商店街よろず相談所の開設や、大阪大学の支援を得て学者と来街者が語らう「北天満サイエンスカフェ」を毎月開催。農家との連携による野菜直売の朝市や女性部によるバザー等で賑わいを生み、後継者による空き店舗での開店等の好結果につなげている。

商店街情報

所在地:大阪府大阪市北区黒崎町8番5号
地域の人口:126,752人 76,144世帯(大阪市北区)
商店街の種類:地域型商店街
会員数:13名
店舗数:13店舗(主な業種構成:飲食・喫茶、居酒屋、
雑貨、衣料、古書、映画館、歯医者、保育所)
TEL:06-6371-6054 FAX:06-6371-6100
URL:<https://nakazaki-kitatenma.jimdo.com/>



よろず相談所「興学院」

商店街の概要と近年の環境変化

当商工倶楽部は、地下鉄中崎駅から天神橋5丁目交差点に至る約400mの街区を有する「天五中崎通り商店街(通称:おいでやす通り)」の会員と、地域団体や住民等から構成される地域コミュニティ組織。商店街が立地するこの地域は、先の戦争での大阪大空襲からも焼け残り、戦後は映画館があったことなどから大勢の人々が集まり大変な賑わいを見せた。また、昭和33年にはいち早く全蓋型のアーケードを設置するなど、地域の人々から親しまれてきた。

現在の商店街は、「中崎商店街」「黒崎西商店街」「黒崎東商店街」「浪花町商店街振興組合」の4区、約200の店舗から構成されている。立地上、通勤や通学で通行量が多いが、地域住民の高齢化が進み、商店もこれらに対応した商品やサービスが増える半面、若者など新規来店客を引き寄せる魅力的な店舗に欠けることが課題となっている。加えて、梅田駅から東に徒歩で10分という至近な距離にあり、「うめきた再開発」により物販店を中心に大きな影響を受けているほか、商店街組織自体も店主の高齢化と後継者不足から十分な活動を行うことが難しくなりつつあった。

一方、商店街の周辺には若者によるカフェやファンシーグッズ店が立地するようになり、これらの人々を街の活動に引き込むことも喫緊の課題となっていた。こうした中で、平成19年当時黒崎東商店街の会長であった当倶楽部の青山会長が、“商店街活動には街づくりの視点が必要”と考え、関係者と協力して20年3月に商店街マップ「北天満お散歩地図」を作成。さらに、21年からは毎月1回、大阪大学との連携で「北天満サイエンスカフェ」を始めた。こうした活動に賛同した地域団体や関係者により平成24年に「中崎・北天満商工倶楽部」が設立され、商店街と地域活性化への取り組みをスタートした。



商店街の風景

助成事業の概要とその成果

当倶楽部では、活動の拠点として大正9年建築の空き店舗をリニューアルし、「興学院」と名付けたコミュニティ施設を開設しており、助成事業においてはこれを活用して地域の人々への支援活動等を実施した。また、事業の実施に当たっては、「北天満社会福祉協議会」「北天満女性会」「北天満地域青少年指導会」などの地域団体と連携し、以下のイベント事業を実施した。

【事業テーマ：商店街のよろず相談所『興学院』】

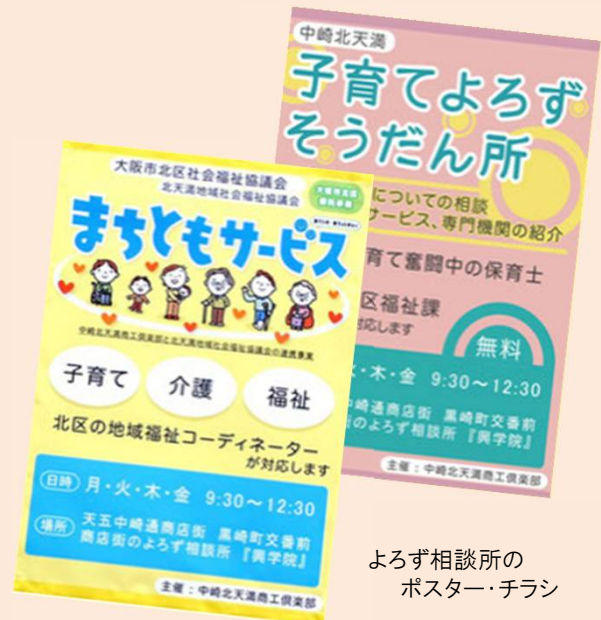
(1) 地域の人々のためのよろず相談所の開設と運営

買い物客やイベント参加者のために、保育士による無料保育を実施したほか、北区福祉課の職員や福祉コーディネーターの支援を得て、子育て・高齢者介護等に関する相談や、地域の支援サービス機関の紹介等を行った。事業期間中の対応件数は172件に上っている。

(2) 中崎北天満サイエンスカフェの開催

(12回開催、毎回約30人が参加)

サイエンスカフェは、学者と一般の人々がお茶を飲みながら科学等について語り合うものだが、当倶楽部では大阪大学と連携し、空き店舗のシャッター前の路上で開催している。助成事業では特に子供向けテーマの充実を図って実施した(主なテーマは以下のとおり)。また、商店街の店舗に効果が及ぶように、500円の買い物券を400円で販売し、商店街で使用してもらった。



よろず相談所の
ポスター・チラシ

《実施した主なテーマ(抜粋)》

平成26年4月19日	「お金の歴史について」大阪国際大学准教授
5月24日	「絵本のちから」読書アドバイザー・小学校教師
8月2日	「太陽系外に惑星を探す」名古屋大学准教授
9月20日	「これからマラソンを始める人の体カトレーニング」武庫川女子大学教授
12月20日	「こども面白サイエンスカフェ」大阪府立千里高校教諭
平成27年3月15日	「こどもは食べたように育つ」大阪千代田短期大学講師



サイエンスカフェの様子

(3) 陶芸教室の開催

地域住民や来街者を対象に陶芸教室を「興学院」で開催。専門家を招いて21回開催し、延べ315人が受講した。参加費は無料としたが、商店街での買い物を条件としたことで、個店の売上にもつながった。



陶芸教室

(4)朝市&手作りバザーを開催

(20回開催し、約4,600人が参加)

「食」をテーマに毎月2回、第2・第4土曜日に開催。奈良県宇陀市の野菜生産組合が朝採れ減農薬野菜の出張販売を行ったほか、北天満女性会が手作りの食品を持ち寄って販売。地域の住民が集まることで商店街が活気づき、個店にも客足が及んだ。



買い物客で賑わう
朝市の風景

助成事業以降の商店街活動

当倶楽部では、助成事業で得たノウハウや成果を踏まえ、その後も引き続き主要な事業を継続して実施し、商店街と地域の活性化に取り組んでいる。事業実施後、歩行者通行量は1.5倍に増加、空き店舗も徐々に解消し、現在は0の状況を維持している。また、イベント等の費用については、大阪市や市商連の助成策等を有効に活用している。

(1)商店街のよろず相談所『興学院』の運営

保育士による買い物やイベント参加者のための無料保育のほか、子育て・高齢者介護等に関する相談会を引き続き実施。さらに、大阪市こども青少年局から「保育ママ施設」の開設依頼があり、平成27年4月より認可保育園「商店街の保育ママ 興学院」を開設し運営に当たっている。

(2)中崎・北天満サイエンスカフェの開催

助成事業実施後も月1回の開催を続けており、平成28年9月で100回目を迎えた。大阪大学大学院の長野講師の講座では、当サイエンスカフェへの出席及び運営の協力等で単位を取得することができる道が開かれており、学生の参加・協力が増えているほか、季節ごとに開催する「こども面白サイエンスカフェ」は、大人にも人気の講座で、商店街に客を呼び込む絶好の機会となっている。

(3)中崎・北天満朝市・手作りバザーの開催

本事業も月1回のペースで継続して開催している。事業を通じて奈良県の野菜生産者組合、北天満女性会と地域住民との結びつきが強くなり、街の活性化とコミュニティの強化に貢献している。

(4)地域イベント「北天満秋のコラボレーション」を開催

商店街の店舗と地域住民、大阪大学の学生等との連携強化と新規顧客獲得のきっかけづくりを目的として、毎年10月の最終土曜日に街を挙げての集客イベントを開催している。

イベントでは、幼稚園児50名による「キッズ創作ダンス」の披露、子供会や地域住民による「手作り縁日」、ボランティアグループによる「占い」や「バルーンアート」、大学講師による「サイエンスカフェ」、フォークソンググループによる演奏、等で大変盛り上がり、地域の人々とのつながりを一層強化していくことができた。



キッズ創作ダンス

以上のように、地域との連携に有効な事業については、行政の支援を活用する等の工夫をして継続しているほか、地域の団体や幼稚園等の結びつきで保護者等の来街も増加しつつあり、地域コミュニティを核とした街づくりの成果が徐々に表れている。

自治体等との連携の状況



大阪市
Osaka City

大阪市内には約480の商店街が存在し、日常の買い物の場や地域の交流の場として機能しているが、近年の大型店やコンビニの進出、ネット販売等で一層厳しい環境となっている。大阪市経済戦略局では、これらの問題解決に向けて活性化支援策を講じており、特に「大阪市商業魅力向上事業」等を通じて以下のような助成を実施している。

①ハード施設整備への助成

商店街が社会的・公共的役割を果たすとともに新たな魅力づくりのための「施設整備事業」として、商店街のアーケード、カラー舗装、街路灯、駐輪場等の新設や改修・補修等に必要費用の一部について助成を実施。また、「オープンモール化事業」として、既存アーケード等の撤去とこれに合わせて実施する施設整備に対して費用の一部を助成。

②ソフト事業への助成

商店街の新たな魅力づくりのための賑わい創出イベントの開催や、空き店舗活用事業等に要する費用の一部を助成。

③大阪商店街賑わいキャンペーン事業

市内の商店街を束ねる「大阪市商店会総連盟」と連携し、市内各地の商店街が一定の期間内に集中してイベントを実施する事業に対して費用の一部を助成するとともに、インターネットやチラシ等で情報発信し、支援している。

当商工倶楽部も、本事業を活用し、「北天満秋のコラボレーション事業」を実施している。

商店街の今後の戦略

当商店街は、再開発された梅田の商業施設から徒歩で僅か10分の位置にある。大量の商品を揃える複合型商業施設と共存していくためには、アーケードを中心とした“線”としての商店街ではなく、地域の新しい商業者を取り込んだ“街”としての視点が必要と考え「中崎・北天満商工倶楽部」を設立。地域の団体や大学などと連携しながら、優しさや温かさを伝える、複合商業施設にはない取り組みを始めた。

また、平成22年には、西区の母親の育児放棄により3歳と1歳9か月の子供が亡くなる痛ましい事件が起きた。この事件から、育児や介護に疲れての虐待や事故を防ぐための「商店街よろず相談所」の開設を思い立った。この活動も2年を経過し、市の子供相談センターから短期の里親としての協力を打診されており、今後は育児放棄や幼児虐待の一時避難所としての役割を担っていく予定である。

さらに、「サイエンスカフェ」も100回を超え、地域住民だけでなく府内の広い範囲から参加してもらえるようになった。

今後は、ネットワークの強化・活用とともに、会員の増強に努めていきたい。



～ 仕掛け人 ～

中崎・北天満商工倶楽部
会長 青山 隆一

取材を通して明らかとなったこと

本事例の特徴は、一つには、商店会の会長を務めていた青山会長が、その経験の中から、アーケードによる“線”の商店街から、周辺の新しい店舗を取り込み“面”による街づくりを積極的に進めていること。二つ目は、地域の間人関係が希薄になることなどで発生する事件や事故を、コミュニティの機能を高めて未然に防いでいこうとしていること。三つ目には、“商学連携”により、人々の役に立つサイエンス・カフェ等の事業を継続して運営し、地域に溶け込んだ行事に育て上げていることが挙げられる。

また、こうした取り組みのために、会長が中心となって市等が開催する街づくりの勉強会に積極的に参加して情報を得るほか、人的なネットワークを形成していることが特筆すべき点である。サイエンス・カフェの開催も、大阪大学の長野講師との出会いがあってこそその事業である。

地域の人々は商店街に何を望んでいるのか、地域の学校や団体等からそのニーズを汲み取り、地域の活性化と商店街に売り上げ増をもたらすための工夫を常に講じている姿は、活性化を模索する他の街の参考に値するものである。